

まほろば



2018.12
第208号

平時の訓練が生命を守る —地震想定防災訓練実施—

平成 30 年 11 月 16 日の日中、弘前市で震度 6 強の地震が起きたことを想定し、防災訓練を行いました。
私は、病棟で入院患者の負傷の有無や被害状況の確認を最初の行動として行いました。

病棟内が地震による損壊で、負傷者の避難が必要な状況との想定の中、患者役の看護学生 39 名の避難誘導、応援職員への連絡・指示を行うリーダー役を担い、患者の避難を終えることができました。

訓練の前日までに、何度も繰り返しリハーサルやイメージトレーニングを行いましたが、実際に訓練の場となると、応援職員への指示が難しく、患者の避難がイメージとおりにならない場面がありました。

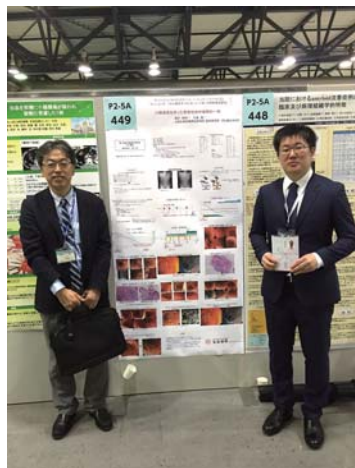
災害発生時には想定以上の混乱や被害が予想されます。やはり平時からの備えが重要であり、災害に迅速に対応できるように訓練が大切であると感じました。

患者と職員、そして自分自身の生命を守るよう、災害はいつでも起こりうるという危機感を強く持ち、日々の業務に防災訓練で得た学びを活かしていきたいと思います。

7階病棟 看護師：須藤 薫



第72回 国立病院総合医学学会に参加して



昨年度、研修医として国立弘前病院にお世話になりました蓮井研悟と申します。2018年11月9日（金）～11月10日（土）に開催されました第72回国立病院総合医学学会で「消化器疾患の診療（3）小腸・大腸疾患を診る」セッションに参加させて頂きました。指導医の石黒陽先生と議論を重ねました「小腸病変を伴った家族性地中海熱の一例」を発表し、ベストポスター賞を頂くことができました。国立弘前病院では、希少疾患を診察させて頂く機会に恵まれ、基礎研究にも踏み込んだ新たな知見も示唆され、大変有意義な研修を行うことができました。研修中、ご指導頂きました先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。

研究員：蓮井 研悟

国立病院総合医学学会でベストポスター賞をいただきました

今回私たちは、11月8日～9日に行われた第72回国立病院総合医学学会に参加しました。多様性のなかに個が輝くー私たちの医療を推進しますーというテーマのもと全国から様々な職種の国立病院機構の職員が会場である神戸国際展示場に集まりました。私たちは「看取りを経験した看護師が抱える心情の実態」という演題で参加、ポスターセッションとし、看護研究をポスターにまとめ発表しました。発表準備では、悩むことも多くありましたが、看護師長はじめ病棟スタッフの皆様の協力の甲斐あって、ベストポスター賞を受賞できました。初めての参加で、規模の大きさや参加者の多さに驚く中、日々私



ちが実践している看護の出来事がテーマとなっていてとても身近に感じられる興味深い発表や、多職種の研究発表を聞くことができ、とても大きな刺激になりました。今回の参加を通して学んだことを日々の看護に生かしていきたいと思います。

7階病棟：三森 翠、仙臺谷 志保理、安原 謙太

11月9日、10日の2日間、国立病院総合医学学会が兵庫県神戸市で開催されました。今回「呼吸器科外来における医師事務作業補助者による診療時間短縮への取り組み」についてポスター発表を行いました。昨年に引き続き2回目の発表でもあり、今回はあまり緊張することなく5分間の発表を終えることができました。他病院の発表を聞く機会もあり色々な取り組みを学ぶことができました。また、『ベストポスター賞』を受賞することができたことから、自分の取り組みが評価され自信にも繋がりました。発表の地である神戸といえば神戸牛！ですが、鉄板焼きやビフカツにとろけてしまいました。スイーツも有名ですが、観音屋で食べたチーズケーキがとってもおいしくて癒やされました。最後に、発表するにあたり沢山のご指導を頂きました呼吸器科の先生方、学会で発表する機会を与えて下さった方々に感謝申し上げます。

医師事務：野呂 千鶴



第10回母乳育児フォーラムを終えて

10月27日(土)弘前病院地域医療研修棟において、第10回母乳フォーラムを開催しました。各施設の医療関係者のほか、看護学生の参加もあり、会場は立ち見がでるほどの盛況でした。第一部では弘前市保健師尾崎弘子さん・黒石市保健師川嶋日出子さんより、弘前市・黒石市の妊産褥婦の継続支援の取り組みを発表していただきました。日頃私たち病院助産師が妊産褥婦さんと関わるのは、妊婦健診や分娩時の入院などごく一時期であり、何か気になることがある場合や、手助けが必要になった場合は、地域の保健師・助産師さんとの連携が不可欠です。今までも妊産褥婦さんの情報共有をし、ケアに活かせるように、時には合同カンファレンスを行うこともあったのですが、地域に帰ってからの各市町村の取り組みを改めて知る機

会となり、今後も協力体制を強化していく上でとても参考になりました。第二部では、弘前大学大学院こころの発達研究センターの三上珠希先生より、「こどもの心に寄り添って育てる。～各年齢ごとに子供への接し方を変えていく大切さ～」というテーマでご講演いただきました。子どもの行動や思考は脳の発達と関連しており、年齢ごとに適した関わり方があるのだということをお話いただきました。和やかな雰囲気とともに充実感あふれる表情でお帰りになる参加者の方々の姿を見て、今後も同様の学習会を計画し、多くの方々と学ぶ機会を作っていきたいと決意を新たにしました。そしてスタッフ一丸となって、赤ちゃんとお母さんと、すべての人にやさしい病院となれるよう研鑽を続けていきたいと思います。

母子医療センター 看護師長：長尾 愛佳



三上珠希先生は一昨年度まで
当院小児科で勤務されていました



満員の会場、手作りスコーンとクッキーが配られ好評でした

研修医便り

研修医 1年目の山崎 瞬です。出身は千葉県です。研修が始まってから8か月が経ち、呼吸器内科、消化器・血液内科、外科で研修をさせていただきました。日々充実した研修を送りあつという間の8か月だったと感じています。4月の頃は何もわからない状態でしたが、指導医の先生をはじめ病棟・外来・手術室のスタッフの方々、2年目の先輩方や同期に助けてもらいながら、少しずつではありますができる仕事が増えてきました。また、野球大会の練習にも声をかけて頂き、小学生以来の野球で汗をかきました。来年もがんばって練習に参加し、微力ながら貢献できればと思います。まだまだ未熟な点が多く、お手数おかけすることが多いとは思いますが、精一杯努力していきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医：山崎 瞬



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表（2018年12月 1 日現在）

診 療 科	区 分	月	火	水	木	金
循 環 器 内 科		熊 本 秀 樹	横 田 貴 志	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹
呼 吸 器 科		中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
		山 本 勝 丸	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子
		下 山 亜矢子	田 中 佳 人	田 中 佳 人	—	田 中 佳 人
		—	—	—	—	—
消 化 器 ・ 血 液 内 科		松 木 明 彦	相 原 智 之	相 原 智 之	松 木 明 彦	相 原 智 之
		山 口 公 平	山 口 公 平	松 木 明 彦	山 口 公 平	山 口 公 平
		佐 藤 年 信	千 葉 裕 樹	佐 藤 年 信	安 田 耕 平	佐 藤 年 信
		石 黒 陽	石 黒 陽	千 葉 裕 樹	石 黒 陽	石 黒 陽
小 児 科		杉 本 和 彦	佐 藤 工	敦 賀 和 志	佐 藤 工	杉 本 和 彦
		敦 賀 和 志	梅 津 英 典	佐 藤 啓	梅 津 英 典	佐 藤 啓
		遅野井 香 純	—	—	—	遅野井 香 純
外 科		柴 田 滋	山 名 大 輔	柴 田 滋	山 名 大 輔	三 上 勝 也
		—	堤 伸 二	堤 伸 二	—	—
乳 腺 外 科		小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅
整 形 外 科	午 前	佐々木 規 博	秋 元 博 之	秋 元 博 之	藤 田 有 紀 受付10時まで	秋 元 博 之
		藤 田 有 紀	藤 田 有 紀	佐々木 規 博		佐々木 規 博
		猿 賀 達 郎	市 川 奈 菜	猿 賀 達 郎		佐々木 静
脳神経外科		—	—	木 村 正 英	—	—
皮 膚 科	午 前	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行
		佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲
	午 後	● 予 約	● 手術／検査	● 予 約	● 手術／検査	● 予 約
泌 尿 器 科	午 前	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨
	午 後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産 婦 人 科		飯 野 香 理	丹 藤 伴 江	丹 藤 伴 江	● 妊婦健診 （一般外来休診）	飯 野 香 理
		松 村 由紀子	小 玉 都 萌	松 村 由紀子		追 切 裕 江
眼 科		蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義
耳 鼻 咽 喉 科		西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳	休 診	西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳
		野 村 彩 美	三 浦 菜		—	—
放 射 線 科	診 断	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄
	治 療	—	—	川 口 英 夫 （午 後）	—	川 口 英 夫 （午 後）
女性専用外来		杉 本 菜穂子（※予約制／第1・第3水曜日午後診療）				
セカンドオピニオン		—	—	—	休 診	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

ゴーンさん 静かに去りゆく 鐘の音

(M)

待ちわびて 退院明日かと 冬の朝

(石沢)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirotsuki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>